

授業科目 支援機器 I (移動機器)

【担当教員名】		対象学年	2	対象学科	義肢	
大鍋 寿一、東江 由起夫、大塚 博 他		開講時期	後期	必修・選択	必修	
		単位数	1	時間数	30	
【概要・一般目標：GI0】 利用者のQOLを上げるために以下の事柄を学ぶ： - 移動福祉機器の対象者・種類・機能・構造・工学的基礎・技術変遷・今後の動向 - 車いすの適合性・安全性 - 障害の種類と車いす - 昇降装置、介護リフト また、専門用語について英語を学ぶ。						
【学習目標】 1. 移動福祉機器の種類について説明できる。 2. 移動福祉機器の機能・構造について説明できる。 3. 利用者に適した移動福祉機器を選択できる。 4. 移動福祉機器（車いす）の工学的基礎・構造が説明できる。 5. 車いすの分解組立ができる。 6. 専門用語について英語で表現できる。						
回数	授業計画・学習の主題	SBO 番号	学習方法・学習課題 備考・担当教員			
1	福祉用具概論	1, 6	講義			
2	移動福祉機器の歴史・対象者	1, 6	講義と質疑応答、演習			
3	車いすの構造	2, 6	講義と質疑応答、演習			
4	移動福祉機器の工学的基礎	4, 6	講義と質疑応答、演習			
5	移動福祉機器の工学的基礎	4, 6	講義と質疑応答、演習			
6	移動福祉機器（車いす）の測定	4, 6	講義と質疑応答、演習			
7	構造とメンテナンス	4, 6	実習（大鍋・東江・大塚）準備（羽豆）			
8	構造とメンテナンス	4, 6	実習（大鍋・東江・大塚）準備（羽豆）			
9	構造とメンテナンス	3, 6	実習（大鍋・東江・大塚）準備（羽豆）			
10	駆動ユニットの適合	3, 6	講義と質疑応答、演習			
11	対象者の評価方法と移動福祉機器の選択（杖、歩行器）	3, 6	講義と質疑応答、演習			
12	対象者の評価方法と移動福祉機器の選択（車いす）	3, 6	講義と質疑応答、演習			
13	車いす・シーティングの人間工学的設計	4, 6	講義と質疑応答、演習			
14	車いす・シーティングの生体工学と人間工学	4, 6	講義と質疑応答、演習			
15	まとめ					
注：7, 8, 9「車いすの分解・組立」3限ー5限の連続時間とする。						
【使用図書】	<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格 他>		
教科書 (必ず購入する書籍)						
参考書	1) 車いすのヒューマンデザイン Introduction to Rehabilitation Engineering and Assistive Technology 板書、プリント	田中 理、大鍋寿一監訳 R. A. Cooper、H. Ohnabe、 D. A. Hobson	医学書院 Taylor and Francis	2000・4,500円 2006・\$69,95		
	福祉技術入門	後藤芳一、足立芳寛	Ohmsha	1998・4,515円		
その他の資料						
【評価方法】 臨時試験&レポート：40% 達成度確認試験：40%、学習態度：20%			【履修上の留意点】 課題発見能力と問題解決能力を養成するので、積極的に質疑応答に参加すること 実習においては注意事項を良く聞き安全に気をつけること			